「第2回アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」議事概要

■規模感について

(展示機能)

- ・規模感を詰めていく中で、美術館の中身、やりたいことのイメージも持っておいた方が良い
- ・アジア美術館はコレクションに価値や個性があるため、コレクションに重点を置くのは重要。さらに企画展との相乗効果があるとうまくいく
- ・「コレクション展示機能」というよりは「展示機能」とし、補足として「コレクションを重視して、最大限に活かした展示をする」とした方が今後の活動の幅が限定されない
- ・一つの展覧会だけではなくて、実験的に小さい展覧会がいくつかあるような、区切って使えるような空間を設けても良いのでは
- ・事例として、近年の公立美術館に限らず、大都市圏の人たちが徒歩で来るような街中の美術館や、まちの回遊を促すための分散型ミュージアムも参考になる

(集客・賑わい機能)

- ・集客・賑わい機能については、運営手法の検討も見据え、設計以前の段階から民間企業の意見を取り入れることが重要
- ・収益性に関係する機能と、それ以外のまちづくりや普及啓発などに関わるような付帯機能とで分けて面積の想定をしておいた方が良い
- ・これからの美術館を考えるとインバウンドが一番大きい。その人たちへのアピールが必要
- ・店舗や飲食店を設ける場合は、その地域やアジア美術館に合わせたコンセプトが重要
- ・拡充先にもアーカイブ機能の一部として図書スペースや端末みたいなものがあった方がいいのでは

■候補地の前提条件について

- ・都心部は商業とビジネスの集積で、文化施設が極めて希薄な印象。集客・賑わい機能は都心部にはすでにたくさんあるので、拡充先には教育や文化を深めるようなものも必要（都心部のまちづくりの観点としても考えるべきではないか）
- ・アジア美術館に最も期待されている役割は、文化的多様性を確保し、伝えること。その役割を踏まえると、市民やインバウンドが行きやすい場所に設けることが重要と言える
- ・エリアと併せて、人流を踏まえた建物の外観、エントランスの作りこみ、搬出搬入経路の確保のしやすさなどの視点から拡充候補地へ至るまでの「道すじ」の視点も重要

■比較・検討の評価項目について

- ・地域連携の項目について、アジア美術館が来ることによって、相乗効果でそのエリアを活性化させる、価値を上げる、地域ブランディングに資するといった視点があってもよいのでは
- ・環境負荷の低減に関する視点も大事
- ・候補地選定の際は評価項目による評価のみでなく、具体的な候補地ごとの特性やメリット・デメリットの整理も併せて示してもらえると、もっとイメージがしやすい

■その他

- ・既存館と拡充先との関係や役割分担をどうするかを考える必要がある
- ・現代美術も人を集めるようになってきているが、アジア美術の理解をより深めるためには、作家の名前を覚えてもらえるような取り組みが必要